

石川

能登支局
金沢支局
加賀支局

金沢支局 金沢市西念1-1-3
☎920-0024 F AX 231-5254
エーエー karazawa@yomituri.com

能登支局 七尾市本府中町二35-1
☎926-0021 F AX 53-2515

加賀支局 小松市小馬出町92
☎923-0904 F AX 23-2635

北陸支局 高岡市下関町4-5
☎933-8543 F AX 26-6814

石川支局 高岡市下関町4-5
☎0766-26-6812 F AX 26-6866

富山支局 富山県富山市
☎23-6825

【広告】読売エージェンシー(中日本本社) 高岡 0766-21-3417
076-281-7985
076-204-9486
【折込】北陸読売1S 076-221-0036
【旅行】読売旅行北陸総合受付センター 076-221-0036

購読は
☎0120-4343-81

読売新聞

THE YOMIURI SHIMBUN

2020年(令和2年)
10月4日 曜日

鼓明

県立津幡高校で9月から養蚕を学ぶ授業が始まり、その様子を取材した。

このため、白山市白峰地区で織られている伝統工芸品「牛首細」は、県外産の繭から作られているが現状、
そんな中、同校の園芸部では、県産原料で牛首細を作ろうと目を向けている。

同校は1924年、河北農蚕学校として開校した歴史を持つが、近郊の養蚕業の衰退などを理由として、67年を最後に養蚕の授業が行われなくなった。今回の授業は、同校の創立100周年に向け「養蚕復活プロジェクト」の一環で、担当の大丸孝斉教諭36は「生徒に少しでも養蚕文化に興味を持ってもらいたい」との思いを込める。
県内ではかつて養蚕業が盛んだったが、安価な外国産絹製品の流入や化学繊維の登場で、養蚕農家の戸数は減少。2000年度の生産量を最後に養蚕農家は姿を消した。

県立高 養蚕文化復活目指す

授業で育てている蚕は玉小石とい。ぜひ完成させたい」と語る。牛首細を作ることの意義は大きい。論は「原料を含めてオール石川の目標まであと一歩に迫り、大丸教諭は「原料を含めてオール石川の牛首細を作ることの意義は大きい。ぜひ完成させたい」と語る。

(福原悠介)

北國新聞

第45841号 【日刊】

2020年(令和2年)
10月10日(土)

発行所 北國新聞社
〒920-8588
金沢市南町2番1号
番号案内(076)263-2111
富山本社 番号案内(076)491-8111
〒930-8520 富山市大手町5番1号
©北國新聞社 2020年
http://www.hokkoku.co.jp/



津幡高生が飼育



津幡高 桑の葉を食べる蚕を観察する生徒

津幡高の園芸系列2年生30人が育てている蚕4千匹が順調に成長している。糸を吐き出す「繭づくり」まであと数日とみられ、9月は生徒が期待に胸を膨らませながら世話をした。
授業で養蚕を開始した9月1日に1、2匹だった体長は、8センチほどに成長した。大丸孝斉教諭によると、毎日90匹のビン1小袋六つ分の桑の葉を食べている。
貫紗耶さん(17)は「育てている蚕が見られなくなるのは、いつか蚕が湧いた。繭になつて蚕が見られなくなるのは少し寂しいけど、大きくなって良かった」と話した。